

学童期におよぼす幼稚園教育の効果

～幼稚園教育に対する教育心理学的研究（第3報）～

The Effects of Kindergarten Education to the Achievements of Childhood.

淵 上 孝, 篠 原 優

仁 王 義 彦 (鹿大教代用付属伊敷中)

(I) 問 題

「幼稚園をでた子がめだつのは、一年生の夏休みまでですよ」とか「せいぜい低学年だけでないですか」などと語られる。このような常識は「卒園しても、しなくても、子どもによるから」、「家庭保育よりましでしょう」といった幼稚園教育に対する消極的な態度ともつながっている。

市内で知名の女教師に「学年進行にともなって、卒園児と非卒園児に、どんな差異がみられるか、つまり保育効果の推移について研究したいのですが」と共同研究をもちかけると「そんなちがいはないと思いますね」とのことだった。この考え方は、ただ、この女教師だけでなく、多くの教師や社会人に共通するものといえるであろう。これに対応する幼稚園側の自衛意識から、「幼稚園教育寒肥論」がとなえられたりもする。ところで、われわれのささやかな研究成果からいえば、保育効果を消極的にしかみとめないという素朴な常識は、部分的には正しくても、多くの諸点で独断があるといえる。さらに幼稚園関係者の、この問題に対する従来の研究不足が指摘されるであろう。

さて、幼稚園教育に対するわれわれの共同研究第一報では、幼稚園教師の教職活動に対する適応の諸問題をとりあげた。(昭35, 九州心理学会, 昭37, 鹿大教育学部研究紀要) これによれば、教職活動に対する教師の適応にとって、とくに重要な要因であり、なやみの対象となるものは、Table 1に

Table 1 保育効果の考え方

態 度 \ 群	幼稚園教師	保 護 等	小 中 学 校 教 師	適 応 群	中 間 群	不 適 応 群	県 外	備 考
大いにあり	※62%	49	※21	62	54	72	72	P < 0.01
かなりあり	※32	34	※23	29	43	24	25	P < 0.05
子どもによる	※2	5	※37	3	2	0	2	P < 0.01
家庭保育よりまし	※1	5	※15	2	0	0	0	P < 0.01
家庭保育まさる	0	0	1	0	0	0	0	
不明	3	7	5	5	0	3	2%	

しめされているように、

「保育効果のみとめてもらえない」ということ、端的に言えば、小中学校の教師たちに、「子どもによる」とか「家庭保育よりましだ」という意見が多く、「大いにあり」とする幼稚園教師のそれとに、い

ちじるしい落差がみられることである。待遇問題もさることながら、そのような事態が適応の障壁となりやすいことは、ごく自然のなりゆきと思われる。

そこで、共同研究の第二報では、発展的にこの保育効果について検討した。(昭36, 九州中四国合

同心理学会, 昭37, 鹿大教育学部研究紀要) その研究内容として, 幼稚園教師, 保護者, 小中学校教師を対象とした質問紙法による保育効果観, 保育期間による効果の差異ならびに小学校一年生の卒園児と非卒園児における教科成績の差異を, 統制群法にもとづきながら検討した。それらの研究によって, 積極的ならびに消極的な保育効果として, 次の諸点があきらかにされた。

(一) 卒園児や多年保育児のすぐれている人格的特性として, 次のものが指摘される。

- (1) 集団活動への参加が積極的である。
- (2) 自主的な行動がすぐれている。
- (3) 言語的な表現がすぐれている。
- (4) 教師への安定感がめだっている。
- (5) 友人への適応がすぐれている。
- (6) 音楽リズムの能力がすぐれている。
- (7) 情緒的に安定した子どもが多い。

(8) 知能と学力のつりあいをしらべると, Table 2 のように, オーバーアチーバー (Over Achiever) が多い。

Table 2 卒園児と非卒園児との教科成績の比較
(昭36.7鹿児島市玉江小1年)

卒園の有無 教科 得点	卒 園				非 卒 園			
	国 語		算 数		国 語		算 数	
	頻数	実数	実数	%	実数	%	実数	%
90 以上	41	49	46	55	12	20	13	22
80 ~ 89	16	19	19	21	9	15	15	25
70 ~ 79	7	8	10	12	4	7	11	19
60 ~ 69	6	7	3	4	12	20	12	20
50 ~ 59	9	11	2	3	4	7	4	7
40 ~ 49	2	2	2	3	6	11	3	5
30 ~ 39	3	4	2	2	3	5	1	2
20 ~ 29					3	5		
19 以下					6	10		
N	84				59			
M	81.3		85.6		60.7		72.5	
SD	17.2		14.1		26.0		15.2	
国語…… P < 0.01				算数…… P < 0.01				
卒園児, 非卒園児はともに就学適性検査でD (18点満点で16点以上) の知能度のものである。								

(二) 質問紙法による調査の結果から, 卒園児にみられやすい問題点として, きまりをまもる, 教師の話をおわりまできく, 根気よく作業する, 弱いものをいたわる, かんしゃくをおこさないなどがあげられる。これは幼稚園の一般的な現実や, 園児をもつ家庭の共通的な欠陥にもよるものと思われる。

第三報ではそれらの発展的な研究として, 学年の進行にともなう保育効果の推移をあきらかにすることとした。つまり知能や家庭環境を要因とする統制群法によりながら, 小学校二年, 四年, 六年の児童を対象として, 卒園児と非卒園児の差異をたしかめた。すなわち, 第二報でしめされている保育の効果, 学年が進行しても継続するかどうか, もし継続する場合には, その程度, 発達的な変容および領域による差異をあきらかにすることが, この研究のねらいである。このねらいをより具体的にあげれば次のようになる。

(一) 第二報で対象とした小学校二年生について, 国語, 算数の二教科に限定することなく, より多くの分野で, 卒園の有無による差異をあきらかにする。

(二) 他の小学校二年、四年、六年の児童を対象として、国語、算数の二教科における差異をたしかめる。

(三) 担任教師による指導要録の学習記録を集計して、卒園の有無にもとづく差異をあきらかにする。

(四) 社会的測定法、人物推定法、担任教師の行動記録、児童の父母に対する質問紙法などによって、第二報でしめされた保育効果の推移、とくに学校生活への適応や、人間関係における差異をたしかめる。

(五) 音感やリズム感を内容とする音楽能力テストを実施して、学年進行にともなう卒園児と非卒園児の差異をあきらかにする。

(II) 方 法

以上のような諸問題の検討を、次のような要領で実施した。

(一) 実施期日 昭和37年5月～10月

(二) 実施対象

研究対象とした児童は、Table 3のとおりである。これらの児童のうち、玉江小学校2年生は、昨

Table 3 研究対象の児童一覧表

校名	児童 学年	卒 園		非 卒 園		計	備 考
		実数	%	実数	%		
玉江小	2	93	50.8	90	49.2	183	保卒 4
	4	124	69.3	55	30.7	179	保卒 31
	6	119	55.1	97	44.9	216	保卒 29
中郡小	2	201	79.0	66	21.0	267	保卒 0
	4	183	67.3	89	32.7	272	保卒 0
	6	158	62.0	97	38.0	255	保卒 0
草牟田小	2	179	78.2	50	21.8	229	保卒 17
	4	133	57.3	99	42.7	232	保卒 19
	6	139	59.7	94	40.3	233	保卒 37
計		1,329	64.3	737	35.7	2,066	保卒 137

年度の第二報でも、対象となっていた子どもたちである。いわば、その追跡研究として、とりあげたことになる。草牟田小学校では、二、四、六年児童の父母全員を質問紙法の対象とした。なお、三校とも鹿児島市の準周辺部の学校で、六年生の卒園率は、おおむね60%であるということや、学級数を要因して選択した。

(三) 実施内容

(1) Table 3にしめされている全児童の知能度をたしかめた。草牟田小学校の全児童には、学級担任教師の協力をえて、団体知能テストを実施し、共同研究者による処理をおこなった。

(昭37.9)

(2) 第二報で対象とした玉江小学校183名について、第一学期末評価用の国語、社会、算数、理科の学力テストを、付録(1)、(2)、(3)、(4)の様式で実施した。(昭37.7)

(3) 玉江小学校二、四、六年生694名に付録(5)、(6)、(7)、(8)、(9)、(10)の様式で、国語、算数の学力テストをおこなった。(昭37.10) なお、この学力テストは第一学期末評価用として、鹿大教育学部代用付属田上小学校で作成したものである。

(5) 草牟田小学校二、四、六年生694名の全父母を対象に、付録(11)、(12)の様式で実施した。(昭37.

9)

(6) 中郡小学校二，四，六年生 794 名を対象に，付録(13)，(14)の様式による社会的測定法を，二回にわたっておこなった。(昭37.7，昭37.10)

(7) 草牟田小学校二，四，六年生 694 名に，付録(15)，(16)，(17)の様式で，音楽能力テストをおこなった。(昭37.9) なお，このテストは Table 4，5，6 にしめすような内容で音楽担当の教師によってつくられた。

Table 4 音楽能力調査 (二年用)

調査項目	問 題	説 明	使 用 曲	答	配点	
調 性	長	いつも歌っている歌と そっくりですか	そっくり ○ ちがっている ×	か っ こ う (長 調 で)	○	2
	短	ちがっていますか	説明しながら板書	う た の ま ち (短 調 で)	×	2
リズ ム	リズム形	この曲には ♪♪♪♪♪♪♪ のリズム 形がいくつあります か	左のリズムを手で打ち ながら「こいのぼり」 で練習し間に入る	た な ぼ た	4	2
				かもめの水兵さん	4	2
速 度		この曲は前のより はやいですか おそいですか	同じ曲を速さをかえて 2度ひき前のより速い かおそいかを答える	さ ん ぼ	はやい	2
				す い し ゃ	おそい	2
強 弱		この曲は 弱→強か 強→弱か	強→弱は ○ 。 弱→強。 ○ と 書くように説明	め だ か の 学 校	○ 。	2
				ひ ば り	。 ○	2
音 色		目をつぶって 何の音ですか 楽器の名前を書きなさい	前もって楽器名を確認 させる	次々に楽器をならしそ の名前を書かせる	タ ン プ ト ラ イ	2
					カ ス タ た い こ	2

Table 5 音楽能力調査 (四年用)

調査項目	問 題	説 明	使 用 曲	答	配点	
調 性	長調 短調	1つか2つ音が変わる からその変わったところ をみつける	アマリリスの最後のフレ ーズを同主調の短調 でひき説明する	アマリリス	半音下が った音 ラミ	4
リズ ム	拍子 リズム形	何拍子の曲か ♪♪♪ のリズム形が 曲中にいくつありまし たか	ねんねのお里で例示し 何拍子かをあてさせる ♪♪♪ を数回リズム唱 させる	わ か 葉	3 拍子	2
				か す み か 雲 か	4	2
速 度		後の曲は前の曲より はやいですか おそいですか	ねんねのお里 おそく かすみか雲か はやく つりのおじさん はやく かえるの合唱 おそく	か す み か 雲 か	はやい	2
				か え る の 合 唱	おそい	2
強 弱		この曲は弱くから強く なっていますか 強くから弱くなってい ますか	弱→強 よつ 強→弱 つよ 説明と指示	も み じ	よ つ	2
				お た ま じ ゃ く し	つ よ	2
音 色		演奏された楽器の名ま えをあてなさい	楽器名を正しく書くこ とを指示	白 鳥	チ ェ ロ ピ ア ノ	2 2

Table 6 音 楽 能 力 調 査 (六年用)

調査項目	問 題	説 明	使 用 曲	答	配点
調 性	演奏する曲は長調ですか 短調ですか	簡単な旋律の曲をきかせ長短を同主調でひいたことをわからせる	花 う り こ き ょ う の 人 々	短 調	2
				短 調	2
拍 リ 子 ズ ム 感 感	何拍子の曲でしたか順に書きなさい 3拍子の形のリズムが曲の中に何回でてきますか	「静かな湖」で例示し何拍子かをあてさせる 3拍子を数回リズム唱させる	おお牧場はみどり (原曲は2拍子) 村 の か じ や	3 拍 子 6 拍 子 4 拍 子 3	4
増 減	フレーズ毎に ff, f, mf, mP, P の発想記号をつけなさい	こきょうの人々で例示し mP, mf, mP であることをわからせる	お ぼ ろ 月 夜	P mP mf P	4
音 色	演奏された楽器の名まえをあてなさい	何の楽器か名まえを書くことを指示する	双頭のわしの旗のもと に	ピ ア ノ 小 だ い こ 木 鉄 琴 琴	4
フ レ ー ズ	この音楽にはひとかたまりのふしがいくつありますか	「花うり」を聞きながら手拍子を打ちまとまったところで手拍子をとめる	静 か な 湖 は に ゆ う の 宿	3	2
				6	2

(8) 研究対象となった玉江小学校、草牟田小学校、中郡小学校の二、四、六年生 2,066 名について、卒園の有無、保育期間、家庭の職業などを調査した。

(四) 卒園群と非卒園群の設定

卒園児、非卒園児とも、所属学校の各学年における知能度平均から、1標準差(1σ, 1SD)以内のものを、第一次的に抽出した。つまり、知能偏差値では、+10から-10、知能指数では+15から-15の範囲にある児童をえらんだことになる。

さらに、家庭の状態では、施設入居児、援護家庭児や、失対、日雇、農業などの職業をもつ家庭の児童を除外した。なお、各学級とも数名の保育園収容児をふくんでいたが、これは卒園群、非卒園群のいずれからもものぞくこととした。

(III) 結 果

以上のような方法で収集した結果を処理することによって、次のような諸点がたしかめられた。

(一) 教科別学力テストによる差異

(1) 第二報の研究対象である玉江小学校二年生に実施した国語、社会、算数、理科の第一学期末評価テストの結果は、Table 7 および Table 8 のとおりである。これによれば、各教科ともすべて有意の差をもって、卒園群のすぐれていることがうかがえる。ただし、算数科にくらべると、国語科では、よりいちじるしく、卒園群がすぐれている。得点の分散では、Table 8 の算数科をのぞいて、いづれも非卒園群のより大きい傾向がしめされている。

Table 7 卒園群と非卒園群の教科成績 (I) (玉江小2年) (知能による統制)

得点	教科 区分 人数	国 語				社 会				算 数				理 科			
		卒園児		非卒園児		卒園児		非卒園児		卒園児		非卒園児		卒園児		非卒園児	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
90以上		20	33	10	15	32	55	19	28	20	33	10	14	6	10	5	7
80~89		18	30	14	21	12	21	17	25	16	27	14	20	16	27	6	9
70~79		15	25	16	23	6	10	13	19	8	13	16	22	14	24	9	14
60~69		1	2	11	16	6	10	11	16	9	15	10	14	12	20	20	30
50~59		3	5	9	14	2	4	3	4			7	12	4	7	12	18
40~49		3	5	3	4			3	4	5	8	6	10	4	7	9	14
30~39				3	4			1	2	1	2	2	3	3	5		
20~29				2	3							3	4			4	6
19以下								1	2	1	2	1	1			1	2
N		60		68		58		68		60		69		59		66	
M		82.6		70.6		85.2		76.1		79.2		69.3		71.8		62.3	
S・D		13.6		17.3		11.8		16.8		18.4		19.7		16.3		18.3	
備 考		t=3.66 P<0.01				t=2.92 P<0.01				t=3.00 P<0.01				t=3.03 P<0.01			

Table 8 卒園群と非卒園群の教科成績 (II) (玉江小2年) (知能と家庭職業による統制)

得点	教科 区分 人数	国 語				社 会				算 数				理 科			
		卒園児		非卒園児		卒園児		非卒園児		卒園児		非卒園児		卒園児		非卒園児	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
90以上		20	34	9	18	31	55	16	34	19	32	9	18	5	9	4	8
80~89		17	28	11	23	11	19	10	20	16	27	12	24	16	28	4	8
70~79		14	24	12	25	6	11	8	16	7	12	12	24	13	23	7	15
60~69		1	2	4	8	6	11	9	18	9	16	5	10	12	21	12	26
50~59		3	6	6	12	2	4	2	4			5	10	4	7	10	21
40~49		3	6	3	6			3	6	5	9	5	10	4	7	8	17
30~39				2	4			1	2	1	2	2	4	3	5		
20~29				2	4											2	4
19以下										1	2					1	1
N		58		49		56		49		58		50		57		48	
M		82.7		71.5		85.0		76.7		78.9		72.9		71.4		62.4	
S・D		13.1		18.9		11.8		16.0		17.8		17.0		16.4		18.7	
備 考		t=3.31 P<0.01				t=3.23 P<0.01				t=1.85 0.05<P<0.01				t=2.56 P<0.01			

(2) 草牟田小学校二年, 四年, 六年の児童を対象に実施した国語科と算数科の学力テストの実施結果は, Table 9, Table 10, Table 11のとおりである。これらの表をながめると, 次のことがうかがえる。

